2019（令和元）年11月22日　発行

中村設計新聞

第七十九号（特大号）

十月十九日　曇り・二十日　晴れ

十月は岡山県の倉敷と香川県の直島に一泊二日の研修旅行に行きました。今年は二枚に渡り研修旅行をお伝えします。

○はじめに

十月は、岡山県倉敷市と香川県直島へ一泊二日の研修旅行に出かけました。雨も降ることなく、充実した旅行を満喫することができました。

まずは、一日目の倉敷を振り返ります。

○一日目スケジュール

JR　新大阪駅　集合・出発
←
JR　倉敷駅　到着
←
倉敷美観地区見学
←
JR　倉敷駅　出発
←
JR　児島駅　到着
←
倉敷せとうち児島ホテル　到着

↑新幹線でくつろぐ所員たち

↑倉敷駅到着！

↑美観地区にて昼食です。

↑なまこ壁の路地裏

○倉敷美観地区

倉敷市の美観地区景観条例に基づき定められています。当該地区は伝統的建造物群保存地区（倉敷川周辺）で、倉敷川畔伝統的建造物群保存地区の名称で国の重要伝統的建造物群保存地区として選定されています。

江戸時代初期の寛永十九年（一六四二年）、江戸幕府の天領に定められた際に倉敷代官所が当地区に設けられ、備中国南部の物資の集散地として発展しました。

倉敷川の畔から鶴形山南側の街道一帯に白壁なまこ壁の屋敷や蔵が並び、天領時代の町並みを残しています。

◆倉敷物語館前にて記念撮影◆

○倉敷観光ルート

ボランティアガイドさんに案内していただきました。←

↑③大原邸

↑①倉敷国際ホテル
設計：浦辺鎮太郎

↑④倉敷アイビースクエア

↑②大原美術館
設計：薬師寺主計

○レポート

今回初めて研修旅行に参加しましたが、倉敷美観地区は昔の風情が保存されており大変良かったです。

白壁の蔵、川沿いの建物群等、昔ながらの町家に懐かしさを覚えつつ、伏見の景観とよく似ていると感じました。この美しい景観を維持するには地域住民の大変な苦労と協力があったのではないかと思いました。京都市も保存地区を指定していますが、建物の維持管理、空き家対策等、景観を維持する為に住人の理解と行政の更なる施策が必要と感じました。

山田　みさ子

○夕食+クイズ大会

瀬戸内海が一望できるホテルに宿泊しました。

夕食を楽しみながら、倉敷・直島にまつわるクイズ大会を行いました。

↑瀬戸大橋が一望できます。

↑白熱のクイズ大会！！

研修旅行一日目終了です。美観地区で京都とは一味違う古き良き景観に触れることができ、所員との交流も図れ充実した日となりました。

二日目は瀬戸内国際芸術祭が開催中の直島へ！所員は芸術から何を感じ取るのでしょうか。

次頁へ続く・・・

○中村設計新聞　十周年特集④

第二十六号は、二〇一二年に「オリンピック」をテーマに中村設計バドミントン大会を開催した記事でした。所員の普段見ることができない一面をみることもでき、親睦が深まりました。

平成24年2月22日　発行

中村設計新聞

第二十六号

○クイズ

バドミントンのスマッシュの初速ギネス記録が二〇一三年に更新されました。時速何キロメートルでしょう？

①４５８　②４７９　③４９３

正解は、次回の中村設計新聞で！

前号のクイズの答え…②

○二日目スケジュール

倉敷せとうち児島ホテル　出発
←
JR　児島駅　出発
宇野駅　到着
←
四国汽船　宇野港　出発
宮浦港　到着
←
直島　自由散策
←
四国汽船　宮浦港　出発
宇野港　到着
←
JR宇野駅　出発
←
JR　新大阪駅　到着　解散

↑１日の始まりは朝食から！

↑瀬戸内海に浮かぶ直島へ

○直島・瀬戸内国際芸術祭

・直島とは

香川県香川郡直島町に属し岡山県玉野市の沖合約３ｋｍに位置する人口約三千人の島です。大きさは東西に約７ｋｍ、南北に約４ｋｍです。瀬戸内海の交通の要衝として古くから交易や漁業の拠点として栄えてきました。

・瀬戸内国際芸術祭とは

「海の復権」をテーマとし、７つのコンセプトを掲げています。美しい自然と人間が交錯し、交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指しています。

○本村エリア

本村エリアはおよそ三百年前から栄えていた古い町並みが残り、焼杉板張りの黒ずんだ古民家の立ち並ぶたたずまいが独自の風情をかもし出しています。

一九九八年に家プロジェクトが展開されて、以降ANDO MUSEUMや直島港ターミナル、直島ホール等の作品ができています。

家プロジェクトでは、今も生活が営まれる地域で、点在していた空き家などを改修し、人が住んでいた頃の時間と記憶を織り込みながら、空間そのものが作品化されています。また生活空間の中で繰り広げられる来島者と住民との出会いは、さまざまなエピソードを生み出しています。

↑『直島ホール』

↑『ANDO MUSEUM』

○レポート

本村地区に『家プロジェクト』として、六つの小規模な建物があり、内部の作品は趣向を凝らしてあり体感出来る様な所もある。しかし、この地区にはシンボル的と思える様な建物がある。直島ホールと集会所、設計は三分一博志建築設計事務所、屋根形状はそれぞれ違うが屋根仕上げはヒノキ板貼葺で入母屋風の三角部分は空洞で風の通り道となっている。今迄見た事がない建物。三方は盛土になって苔が覆ってあり緑が映えていて管理が行き届いている様に見えた。

長谷川　忠雄

○ベネッセエリア

ベネッセハウス周辺には、建築家の安藤忠雄が設計した建築物が点在しており、ベネッセハウスミュージアム、地中美術館、李禹煥美術館は安藤建築の特徴でもあるコンクリート打ち放しの大きな建築物です。迫力がありながらも、外観の自然との調和や館内の落ち着きが感じられます。

また、歩いていると多くのアートにも出会えます。カラフルなものからシンプルなものまであり、どれも目を引くものばかりです。建築物と同様に、アートも自然との調和が成されています。

↑『はいしゃ』

↑『ベネッセハウスミュージアム』

↑『船尾と穴』

↑『直島港ターミナル』

↑『李禹煥美術館』

↑『かえると猫』

○レポート

研修旅行二日目、瀬戸内の穏やかな海を渡り直島へ。

この日はお天気もよく、また地元の祭りとも重なって大勢の人でにぎわっている。バスでベネッセハウス到着。海の香りをすぐそばに感じながらスロープを登って行く。高台から海を臨むロケーションがすばらしく心をのんびりと遊ばせてくれる。中に入っても南に大きく広がった開口や高い吹き抜けが「ここって何階？」と思わせる。アーティストの作品にふれながら、今ここに身をおく幸せを感じる。

井上　紀代美

↑『赤かぼちゃ』

↑『直島パヴィリオン』

↑『I♥(ラブ)湯』

↑帰路のフェリー待ち

○まとめ

岡山県は研修旅行で初めて訪れました。行って初めて気づいた魅力や発見があり、この二日間で普段の業務ではできない体験や所員同士の交流もできました。今年も大変有意義な研修旅行となりました。この体験を生かし所員一同、日々の業務に励みたいと思います。